

古墳時代

の  
鈴石研究

太田市立旭小学校  
6年 和田佳子

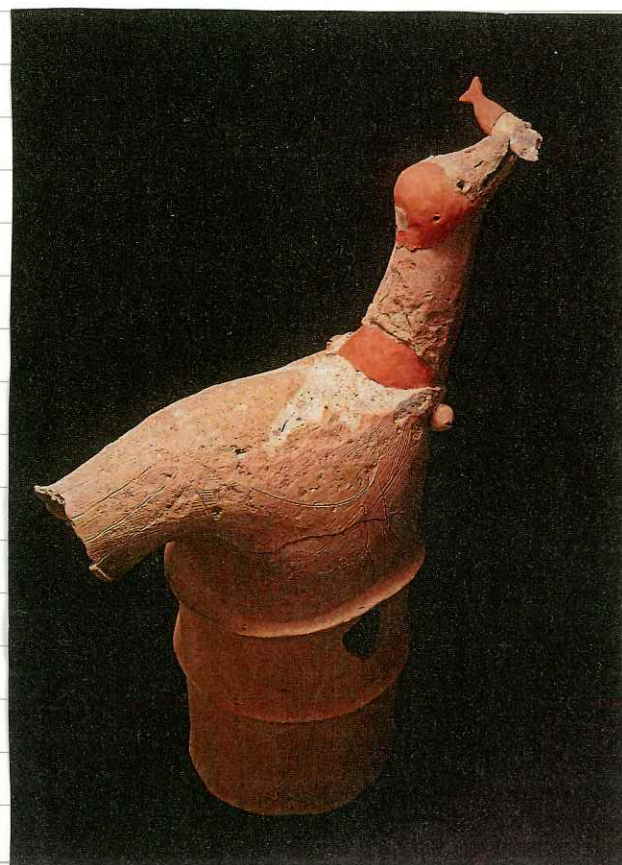
# 1. 研究のきっかけ

2017年、「身近な古墳研究」をしました。  
私の住んでいる太田市では、天神山古墳、女体山古墳、塚廻り古墳群第4号古墳があり、その時代に力をもった人がいたことが分かりました。

2018年、「古墳時代の首飾り研究」をしました。  
古墳時代の人の服装、装飾品を知り、埴輪の首飾りから、古墳時代の様子を理解することができました。

2019年、「歩測の女体山古墳に挑戦」をしました。  
自分の足で歩いて古墳を測る方法を知り、実際に測ってみました。結果は実際のデータよりも大幅に短くなってしまった場所がありました。

私は、オクマン山古墳の鷹匠埴輪の鷹のしっぽに鈴がついているのが気になっていました。保渡田八幡塚古墳の魚をくわえる鶺鴒形埴輪の鶺鴒にも鈴が付いて



いました。鷹狩りや鶺鴒飼いの場面は生き物に鈴が付いているのだと思いました。

2020年8月12日に群馬県立歴史博物館に「綿貫 観音山古墳のすべて」を見にいきました。そこで金銅鈴付大帯を見て、鈴が付いていてびっくりしました。埴輪に鈴がついているのは見たことはあるけれど、金銅製の鈴を見たのは初めてだったので、古墳時代の鈴について調べてみたいと思いました。



## 2. 研究の方法

- ① 鈴について調べる
- ② 古墳時代に出土した鈴を見学する
- ③ 鈴のついている埴輪を集める

### 3. 研究の内容

#### ① 鈴について調べる

鈴…音を出す道具のひとつ。土器や金属、陶器などでできた中空の外身の中に小さな玉が入っており、全体を振り動かすことで音を出すもの。

#### 古墳時代の鈴

古墳時代中期の5世紀ごろになると金属製の丸い鈴が出現した(『古事記』で、雄略天皇の時代に、犬に鈴を付けていた記述と合致する)。古墳時代に製作された埴輪の人物、馬、犬、刀の護拳などには鈴を身に着けたものがある。埴輪に限らず、古墳後期には鏡に付属させた鈴鏡が見られます。

弥生時代は今から2000年ほど前の時代で、日本列島に水田稲作が普及し、金属の加工技術が伝わってきた時代です。しかし弥生時代に銅鐸はあっても、現代のような球形の鈴はありませんでした。ちなみに同時期の朝鮮半島の青銅器には鈴が見られます。

古墳時代の中ごろ、5世紀ごろに銅製の「鈴」が現れます。本体は中空で内部に銅玉や小石を入れ、細い切れ目を持っている今と変わらない丸い鈴です。大陸から朝鮮半島を経て、その製作技術が日本へ伝わってきました。

## ②古墳時代に出土した金鈴を見学する

群馬県立歴史博物館「綿貫観音山古墳のすべて」において、展示されている出土した金鈴を見学しました。

鈴の付いていた出土品は、金銅鈴付大帯の他に5つありました。



### (1) 金銅三環鈴 綿貫観音山古墳 (群馬県 高崎市)

ほぼ同形のもものが3点出土しています。環に3個の鈴を食い込ませて取り付けたもので、馬具と一系者に出土することが多いことから、馬具の一種と推定されています。鈴の内部には鈴子として小石が入っています。



### (2) 青銅製馬鈴 賤機山古墳 (静岡県 静岡市)

馬鈴は青銅製で球形の本体に板状の鈕が付いています。金鈕の片方の面には珠文が金鑄出されています。



### (3) 五鈴鏡 八幡観音塚古墳 (群馬県 高崎市)

旋回式獣像鏡系の鏡です。鏡面の直径は10.7cm、周縁部に直径1.7cmの鈴を5個取り付けています。金鏡背面の文様は不明瞭ですが、内区には紐の周囲に退化した五獣が巡ります。

176

◎五鈴鏡 (八幡観音塚古墳)

直径 10.7cm 高崎市教育委員会

(4) 馬鈴 小泉大塚越3号古墳  
(群馬県佐波郡半玉村町)

青銅製の馬金令で6個出土しています。吊手部分は方形を呈し、胴部中ほどで稜が一周します。



(5) 鈴釧 総社ニ子山古墳  
(群馬県前橋市)

鈴釧は腕輪に鈴が付いたもので、銅で一体に金造されています。6個の鈴が付いています。



写真の鈴が付いている場所に○があります。

③ 鈴のついている埴輪を集める

● 私は、群馬県立歴史博物館に展示されている埴輪をよく見て、鈴が付いている埴輪を集めることにしました。この5つの埴輪は、全て綿貫観音山古墳から出土したものです。

(1) あぐらを組む男子

この埴輪は、あぐらの前で両手を合わせていました。つばつき帽子をかぶり、身なりが良いことがわかります。また、石室から実物が見つかったり、鈴付の太帯を身につけていることから、埴輪群の中で中心的な人物で、被葬者自身を表したものとみられます。



綿貫観音山古墳には振分け髪の子の他に3人の盛装男子が立てられていました。その4人のうちの3人に金鈴が見られました。



(2) 振分け髪の子

この埴輪は、身なりや鈴付太帯の表現などから、被葬者である豪族を表現していると考えられます。

(3) 盛装男子①



この埴輪からは、5つの鈴がみつかっています。

(4) 盛装男子③



この埴輪からは、2つの鈴がみつかっています。

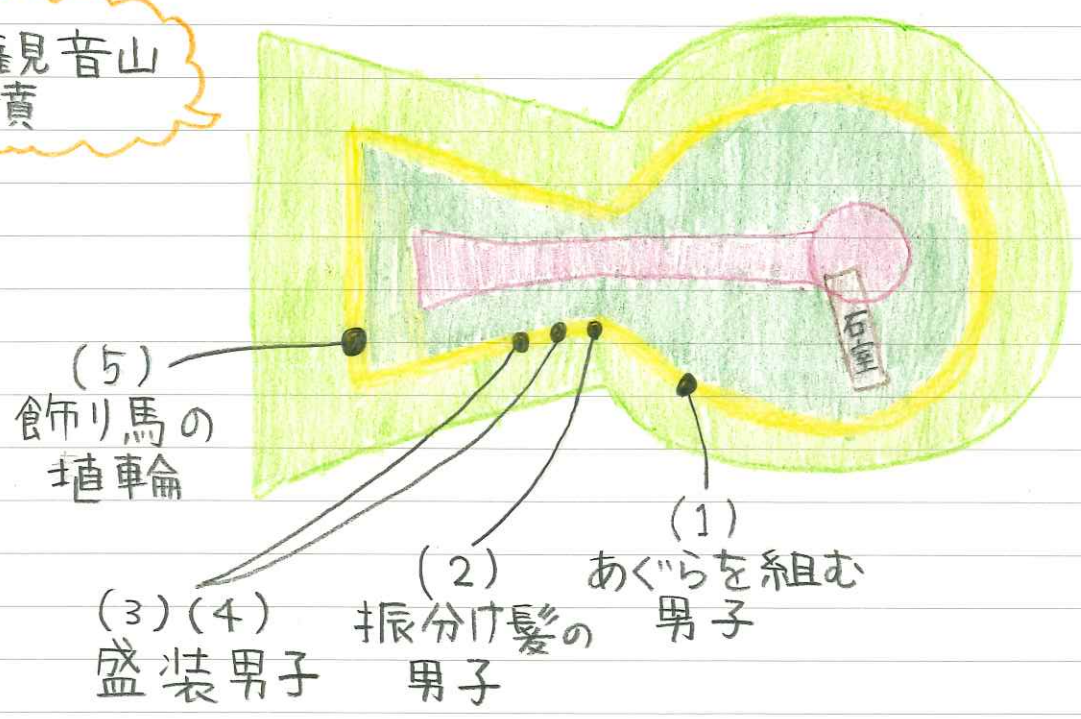


(5) 飾り馬の埴輪

この馬の埴輪は、胸繫のところ鈴が付いています。

# 鈴の付いている埴輪が並んでいる場所

綿貫 観音山  
古墳



● 私は、「集まれ!ぐんまのはにわたち」の資料の中に、腰に鈴金鏡をさげている女子の埴輪を見つけました。

椅子に座る女子は、塚廻り古墳群第3号墳から出土したものです。

鈴金鏡には鈴がらっ付いています。3号墳には、同じく椅子に座る男子の像があります。首長(王)を表しています。女性と男性でペアになっており、2人でカミサ祭りの儀式にのぞんでいたものと思われます。



127 椅子に座る女子



## 4. 研究の結果

今と変わらない丸い鈴は、古墳時代の中ごろ5世紀ごろに現れました。銅製の鈴は、大陸から朝鮮半島を経て、その製作技術が日本へ伝わってきたのだと知りました。

私は、古墳時代に鈴を人や馬が身に付けていたということを出土した鈴から学びました。人が身に付ける金銅鈴付大帯・五鈴鏡・鈴釧には、複数数の鈴が付いています。馬が身に付ける銅三環鈴や馬鈴も複数数の鈴が出土しているのが印象的です。

鷹狩りや鶉飼いの生き物に付いている1つの鈴とは違い、複数数の鈴を人や馬が身に付けるのはとても豪華だと感じました。また、たくさんの鈴のチャンチャンという音のひびきが、古墳時代においてとても価値のある音なのだと思います。

鈴は身分の高い男女の埴輪に付いていることから、古墳時代において、貴重なものであったと考えました。

## 5. 参考にした本

- ・群馬県立歴史博物館常設展示図鑑
- ・東国文化副読本「古代ぐんまを探検しよう」(2017)
- ・群馬県立歴史博物館第99回企画展  
集まれ!ぐんまのはにわたち
- ・群馬県立歴史博物館 国宝決定記念第101回企画展  
糸島貫峯見音山古墳のすべて